



平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年7月31日

上場取引所 東

上場会社名 セーレン株式会社
 コード番号 3569 URL <http://www.seiren.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 総務担当
 四半期報告書提出予定日 平成24年8月10日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 川田 達男
 (氏名) 坪田 敏郎

TEL 0776-35-2111

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	23,648	15.4	1,263	36.5	1,324	23.1	732	10.1
24年3月期第1四半期	20,496	△3.5	925	△28.6	1,076	△35.4	664	△1.2

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 1,754百万円 (51.6%) 24年3月期第1四半期 1,157百万円 (49.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	12.31	—
24年3月期第1四半期	11.09	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第1四半期	90,322	47,524	52.1	790.84
24年3月期	88,703	46,079	51.4	766.98

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 47,025百万円 24年3月期 45,606百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	5.00	—	7.50	12.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	45,800	12.2	2,250	59.9	2,250	47.7	1,250	37.1	21.02
通期	93,000	8.1	5,650	58.4	5,550	43.3	3,450	62.8	58.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は添付資料4ページ「2. サマリー情報(その他)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期1Q	64,633,646 株	24年3月期	64,633,646 株
25年3月期1Q	5,171,117 株	24年3月期	5,171,117 株
25年3月期1Q	59,462,529 株	24年3月期1Q	59,925,616 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報等	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期における日本経済は、個人消費や設備投資など一部に緩やかな回復の兆しがみられたものの、欧州債務危機を背景とした世界経済の先行き懸念や長期化する円高など、本格的な景気回復には依然不透明な状況が続いております。

当社グループにおきましては「21世紀型企業への変革!」を中期方針に掲げ、世の中のニーズが変化し続ける環境下においても常にお客様のニーズに応えつつ、安定収益と継続した企業成長を果たすため、“新規事業の拡大”と“グローバル事業の拡大”を柱とした中期事業戦略に取り組んでおります。併行して、生産性向上や業務の効率化・改善、徹底した経費削減による収益力強化を図るとともに、新規事業の創出に必要な人材育成および組織機能の拡充など、企業体質の強化に注力しております。またグループ関連会社におきましては、一層の経営効率化を図るため、合併および事業の見直しを行いました。

当第1四半期の連結業績は、売上高 236 億 48 百万円（前年同期比 15.4%増）、営業利益 12 億 63 百万円（同 36.5%増）、経常利益 13 億 24 百万円（同 23.1%増）、四半期純利益 7 億 32 百万円（同 10.1%増）となりました。

[セグメント別の業績概況]

(オートモーティブ事業)

国内事業では、前年の震災影響による反動増やエコカー補助金効果による需要回復を背景に前年同期比増収・増益となりました。また、当オートモーティブ事業の中期戦略商品として開発・拡販を進める高付加価値商品「革を超える新素材（QUOLE）」が、市場において高い評価を受け売上高を伸ばしました。

海外事業においても、北米や中国、タイにおける日系自動車メーカーの大幅な生産回復を受けて売上高を伸ばしました。さらに、海外子会社における新商品生産ラインの立上げを進めるとともに、インド・インドネシアでの会社設立および生産拠点設立に着手いたしました。

当事業の売上高は 119 億 73 百万円（前年同期比 38.3%増）、営業利益 7 億 12 百万円（同 113.2%増）となりました。

(ハイファッション事業)

ファッション市場は、前年の震災影響による反動増に加え、アパレル各社の新商品投入や販促強化が功を奏し、徐々に回復の兆しが見え始めました。

当社グループのファッション事業では、節電によりさらに拡大するクールビズ商品市場をターゲットに、快適性を追求した冷感タッチの吸汗速乾素材や、機能素材にファッション・トレンドを融合したビスコマテリアル素材の拡販を進め、売上高を伸ばしました。さらに、多品種・小ロット・短納期を実現する独自技術のビスコテックス生産システムが「売れるものを売れるだけ欲しい」という市場ニーズに合致し、前年同期比増収・増益となりました。また、KBセーレン(株)の衣料向け特殊原糸販売も順調に推移しました。

海外事業では、2012年3月にタイ子会社のサハセーレンにおいて衣料製品の生産を開始しました。価格競争力のある差別化商品とともに、同一工場内で原糸から製品までの全工程を一貫管理することで実現する“高い品質”と“確かな納期管理”を強みに、さらなる拡販を進めてまいります。

当事業の売上高は 74 億 85 百万円（前年同期比 5.1%増）、営業利益は 3 億 70 百万円（同 34.2%増）となりました。

(エレクトロニクス事業)

長期化する円高や新興国メーカーの台頭による価格競争の激化に加え、欧州債務危機に端を発する世界的な需要低減を受け、電磁波シールド材「プラット®」、KBセーレン(株)のエレクトロニクス向け特殊原糸が前年同期比減収・減益となりました。

新事業のビスコテックス・システム販売については、多様化する消費者ニーズへの対応を省資源・省

エネルギーで実現する生産システムとして拡販を進めております。

当事業では、繊維を始めとする高分子材料と導電性機能、インクジェット技術との複合技術など、当社グループの差別化シーズを活かした新商品開発を継続し、新たな価値創造に取り組んでいきます。

当事業の売上高は10億31百万円（前年同期比38.1%減）、営業損失は1億12百万円（前年同期は営業利益58百万円）となりました。

（インテリア・ハウジング事業）

新設住宅着工戸数は、震災からの復興需要を受け、緩やかながらも増加基調となりました。

また、夏場に向けた節電要請や継続的な電気料金値上げを受け、企業から一般家庭に至るまで節電ニーズは急速な高まりをみせております。このような市況の中、KBセーレン(株)の特殊原糸「イレイド®」を用いた遮熱ブラインド資材や遮熱型透湿ルーフィング材「ルーフ ラミテクト® RX」、遮熱型ハウスラップ材「ラミテクト® サーモ」等、当社グループの一貫機能を活かした差別化商品群が大きく売上高を伸ばしました。今後さらに高まる省エネ（節電）ニーズに対応すべく、新たな商品開発を進めております。

当事業の売上高は16億49百万円（前年同期比12.1%増）、営業利益は1億88百万円（同9.4%増）となりました。

（メディカル事業）

化粧品事業は、新商品投入とネット販売の強化により前年同期比増収・増益となりました。また、卓越した消臭機能を持つアンダーウェアシリーズ「DEOEST®」のラインナップに消臭機能と涼感・吸汗速乾機能を兼ね備えた「DEOEST®COOL」を追加し、顧客拡大とともに売上高を伸ばしました。

メディカル資材では、KBセーレン(株)の特殊伸縮性不織布「エスパンシオーネ®」および人工血管基材等、グループ一貫機能を活かした差別化商品の販売が堅調に推移しました。

当事業の売上高は12億63百万円（前年同期比4.6%減）、営業利益は3億14百万円（同19.0%増）となりました。

（その他の事業）

セーレン商事(株)の保険代理事業ほか、いずれの事業も堅調に推移しました。

連結子会社であった(株)セーレンシステムサービスは、医療情報システムのソフトウェア開発・販売事業の拡大を目的に吸収合併し、事業の選択と集中を行ない新体制でスタートを切りました。

当事業の売上高は2億45百万円（前年同期比4.9%減）、営業利益は80百万円（同26.4%減）となりました。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期末における総資産は、受取手形及び売掛金などの流動資産の増加や、設備投資による有形固定資産の増加により、全体で前期末と比較して16億19百万円増加の903億22百万円となりました。負債の部は、賞与引当金が減少しましたが、支払手形及び買掛金の増加などにより1億75百万円増加し、427億98百万円となりました。純資産は、為替変動による為替換算調整勘定の増加などにより14億44百万円増加し、475億24百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益13億27百万円、減価償却費10億18百万円などの資金増加要因があり、全体では9億8百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得などにより17億36百万円の支出となり、その結果、フリー・キャッシュ・フローは8億28百万円の減少となりました。また、財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済や配当金の支払などにより、3億50百万円の支出となりました。これらの結果、現金及び現金同等物は前期末より9億69百万円減少し、当第1四半期末残高は23億97百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

第2四半期連結累計期間及び通期の業績につきましては、平成24年5月10日に発表した業績予想を据え置くものとします。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる損益に対する影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,498	2,943
受取手形及び売掛金	21,789	23,034
商品及び製品	7,483	7,502
仕掛品	2,059	2,308
原材料及び貯蔵品	3,069	2,998
その他	2,370	2,326
貸倒引当金	△15	△13
流動資産合計	40,255	41,101
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	20,867	20,833
機械装置及び運搬具(純額)	8,473	8,397
工具、器具及び備品(純額)	297	287
土地	9,540	9,594
その他(純額)	2,180	2,800
有形固定資産合計	41,359	41,913
無形固定資産		
投資その他の資産	454	446
その他	6,681	6,909
貸倒引当金	△48	△48
投資その他の資産合計	6,633	6,860
固定資産合計	48,447	49,220
資産合計	88,703	90,322
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,067	13,588
短期借入金	7,593	7,450
未払法人税等	753	609
賞与引当金	1,016	411
その他	3,638	4,061
流動負債合計	26,068	26,121
固定負債		
長期借入金	9,930	10,038
役員退職慰労引当金	174	174
退職給付引当金	5,555	5,521
負ののれん	158	150
その他	735	791
固定負債合計	16,555	16,676
負債合計	42,623	42,798

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,520	17,520
資本剰余金	16,838	16,838
利益剰余金	19,090	19,524
自己株式	△4,147	△4,147
株主資本合計	49,301	49,735
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	251	91
為替換算調整勘定	△3,946	△2,802
その他の包括利益累計額合計	△3,694	△2,710
少数株主持分	473	498
純資産合計	46,079	47,524
負債純資産合計	88,703	90,322

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	20,496	23,648
売上原価	15,756	18,196
売上総利益	4,740	5,451
販売費及び一般管理費	3,815	4,188
営業利益	925	1,263
営業外収益		
受取利息	38	19
受取配当金	31	33
為替差益	10	0
雇用調整助成金	47	11
その他	85	47
営業外収益合計	214	112
営業外費用		
支払利息	48	35
その他	14	14
営業外費用合計	62	50
経常利益	1,076	1,324
特別利益		
固定資産売却益	4	5
特別利益合計	4	5
特別損失		
固定資産処分損	8	3
その他	0	—
特別損失合計	8	3
税金等調整前四半期純利益	1,072	1,327
法人税等	399	585
少数株主損益調整前四半期純利益	672	741
少数株主利益	8	9
四半期純利益	664	732

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	672	741
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△33	△160
為替換算調整勘定	518	1,173
その他の包括利益合計	485	1,013
四半期包括利益	1,157	1,754
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,140	1,716
少数株主に係る四半期包括利益	17	38

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,072	1,327
減価償却費	1,233	1,018
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	8	△2
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△629	△604
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△59	△34
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△40	△0
受取利息及び受取配当金	△70	△53
支払利息	48	35
為替差損益 (△は益)	△15	△79
固定資産処分損益 (△は益)	3	△2
売上債権の増減額 (△は増加)	541	△960
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△378	33
仕入債務の増減額 (△は減少)	△477	370
未払消費税等の増減額 (△は減少)	27	△71
その他	89	456
小計	1,354	1,432
利息及び配当金の受取額	70	53
利息の支払額	△57	△40
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△850	△535
営業活動によるキャッシュ・フロー	517	908
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△717	△864
有形固定資産の売却による収入	36	5
投資有価証券の取得による支出	△6	△448
その他	△92	△429
投資活動によるキャッシュ・フロー	△780	△1,736
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	293	95
長期借入れによる収入	1,500	1,000
長期借入金の返済による支出	△1,302	△1,129
配当金の支払額	△299	△297
少数株主への配当金の支払額	△13	△13
その他	△7	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	168	△350
現金及び現金同等物に係る換算差額	107	208
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	13	△969
現金及び現金同等物の期首残高	4,831	3,366
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,844	2,397

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

【セグメント情報】

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	オートモ ーティブ	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	インテリ ア・ハウ ジング	メディカ ル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	8,656	7,120	1,666	1,471	1,323	20,239	257	20,496	—	20,496
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1	3	155	—	—	160	208	368	△368	—
計	8,657	7,124	1,822	1,471	1,323	20,399	466	20,865	△368	20,496
セグメント利益	334	276	58	172	263	1,105	109	1,215	△290	925

当第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	オートモ ーティブ	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	インテリ ア・ハウ ジング	メディカ ル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	11,973	7,485	1,031	1,649	1,263	23,403	245	23,648	—	23,648
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	5	28	—	—	33	107	141	△141	—
計	11,973	7,491	1,059	1,649	1,263	23,437	353	23,790	△141	23,648
セグメント利益又は損 失(△)	712	370	△112	188	314	1,473	80	1,554	△291	1,263

(注) 1. 各報告セグメント区分の主な製品等は下記のとおりであります。

- (1) オートモーティブ……………自動車内装材、カーシート、エアバッグ
- (2) ハイファッション……………各種衣料製品、衣料用繊維加工
- (3) エレクトロニクス……………ビスコテックス・システム及びサプライ、工業用ワイピングクロス、電子機器
- (4) インテリア・ハウジング…建築用資材、インテリア用資材
- (5) メディカル……………化粧品、浄水器及びフィルター、医療用製品

なお、「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソフトウェアの開発及び販売、保険代理業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用(前第1四半期連結累計期間313百万円、当第1四半期連結累計期間347百万円)が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務部門などの管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。